

## 売り込もう山形産食材

# 農家と業者情報交換

【山形】食と農の関係機関・団体で組織する、やまがた食産業クラスター協議会と県、JA山形中央会、県地域営農法人



希望品目などについて意見を交わす生産者と食品メーカーの担当者  
(30日、山形市で)

協議会などは30日、山形市で食と農のマッチング交流会を開いた。

生産者と実需者が顔を合わせ、県産農林水産物の利用拡大と食産業の振興を図ろうと、2018年から開いている。

村山・置賜地域から41の生産者団体と、漬物や菓子、缶詰、ギフトなどの食品メーカー20社の関係者約140人が参加した。生産者団体は19年より15団体、食品メーカーは2社多い。

名刺交換をしながら互いに希望する品目を伝え

合い、メーカー側がプレゼンテーションを行った後、個別相談会を開いた。

19年に続き参加したJA新庄市産直いなふね運営協議会の高橋真会長は「食品メーカーが今、何を求めているかを知る絶好の機会。産直向けだけでなく、メーカーと契約を結んでキクイモやニンジンなどを安定的に供給できれば生産振興につながる」と話した。

一方、山形市で洋菓子やパンの製造販売、カフェなどを経営する会社の担当者は「新商品開発に

チャレンジするため、安全・安心、高品質の山形の農産物を求めて毎年参加している。伝統野菜『悪戸いも』を使ったらスクもこの交流会から生まれ、農水省局長賞をいただいた」と話した。

19年は30件の取引が成立した。7日には三川町でも開く。